

安芸市赤野における地域活性化の拠点としての 商業施設・共用広場・グランピング施設の設計

高知工科大学 システム工学群 建築・都市デザイン専攻

1230017 石川 遼太郎

指導教員 重山 陽一郎

1. 背景

対象敷地は、高知県安芸市の西端に位置する赤野地区である。

1) 高速道路の開業に伴い地域が衰退する恐れ

対象敷地は高知東部自動車道の、芸西東ICと安芸西ICの間に位置する(図1)。高知東部自動車道・阿南安芸自動車道が開業すると、国道の渋滞緩和、流通の活性化などが期待される。その一方で、国道の利用者が減り、沿道の衰退が懸念される。

2) 周辺に休憩所がない

車移動が中心である国道55号線沿いと対象敷地に通っている自転車道には、車や自転車を止めて休憩できる場所が多くない。お遍路マップに注目すると、28番の大日寺と27番の神峯寺は離れた位置関係にある(図1)。



図1. 対象敷地とその周辺
(国土地理院地図に筆者加筆)

2. 目的

海沿いの眺望や地元の食材を堪能でき、観光客が長時間の滞在が可能なグランピング施設をつくり、来訪者を増やす。

観光客のみならず、地域住民が日常的に休憩や交流が可能な商業施設、共用広場をつくり、景観に考慮しながら地域の活気を創出する。

3. 対象敷地

対象敷地は高知県安芸市赤野に位置する閉業した「レストラン矢流」の周辺の赤く色づけをした範囲である。このレストランがある地域一帯は周囲より20mほど標高が高いため、景色を楽しむには絶好の場所である。敷地は太平洋に面しており、国道と自転車道の標高は各々約32m、約26mである(図2)。

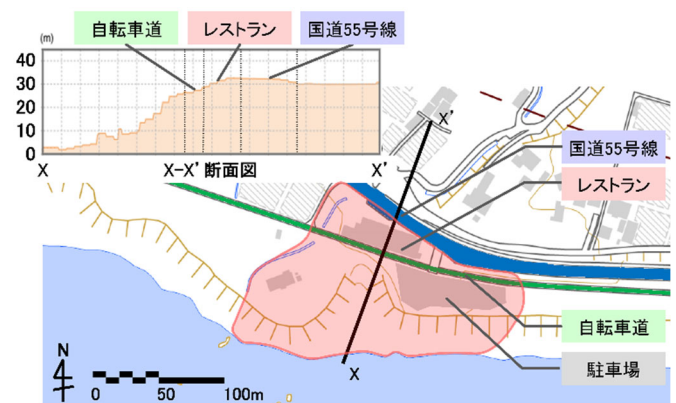


図2. 対象敷地とその周辺の断面図
(国土地理院地図に筆者加筆)

レストランは国道側にのみ正面を向け、駐車場は国道と同じレベルにつくられている。実際に自転車道を通ると、両側にコンクリートの高い壁があり、薄暗く圧迫感がある空間となっている(図3)。



図3. 自転車道から東を向く



図 4. 完成予想図

4. 設計方針

1) 地形を活かしたデザイン

- ・海沿いの眺望を活かした開放感の生成
- ・駐車場跡地を視点場として整備
- ・国道と自転車道に対する正面性の両立
- ・高低差を活かした自然と触れ合う空間の創出

2) 地元の魅力を活用したデザイン

- ・地元の食材や食文化の提供
- ・歴史や文化の発信拠点の設置

5. 設計

商業施設、共用広場、グランピング施設の3つのエリアに分け、それぞれの空間の賑わいを創出する(図4)。通行客の目に留まるように、国道と自転車道に挟まれたレストラン跡地に商業施設、海への眺望が良い駐車場跡地に共用広場、対象敷地南西部に水辺まで高低差を活かしたグランピング施設を設ける。グランピング施設エリアは地形を大きく変形させたかったため、粘土模型を作成し、写真測量をもとにCADで再現して設計を行う。

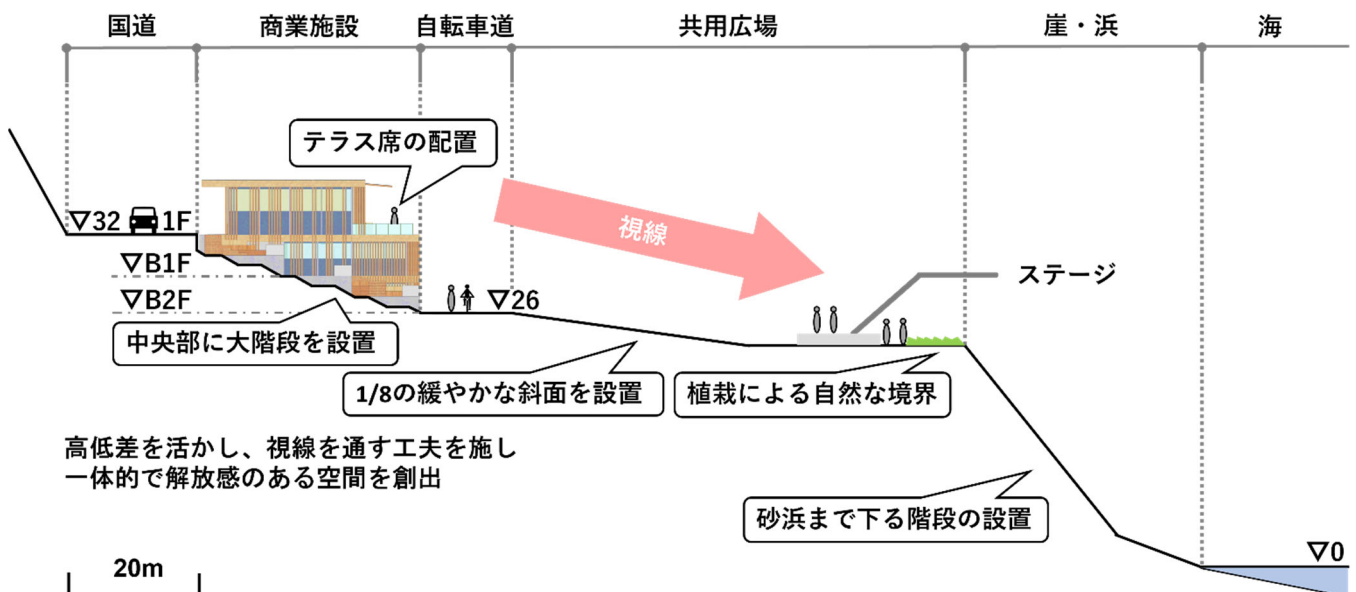


図 5. 断面プラン

1) 商業施設

海への眺望を活かすために客席を海側に配置し、レストランの管理用通路や搬入口などを国道側に設置した。ルーバーや開口、テラス席を用いることで、国道を裏側と感ぜさせないデザインにした(図6)。海側には大開口を設け、中の様子を可視化することで自転車道を利用する際の圧迫感を軽減した(図7)。それぞれの空間のつながりを意識したデザインにより、国道と自転車道のどちらからでも入りやすいようなファサードとした。



図6. 国道沿いで西を向く



図7. 図3と同じ位置から東を向く

また、商業施設とバス待合室の間に大階段を設けたため、国道を走行中にグランピング施設や広場の賑わい、太平洋の眺めなどに視線が抜ける(図5)。現状では、レストランによって分断されていた、国道と自転車道が連続した一体的な空間となった。

客席からの眺望を活かしたレストランとカフェを2階と3階に設置した。地元の食材や食文化を提供する機会となる(図8)。



図8. レストラン内部

地下の自転車道に面したフロアには特産品売り場を設置した。地下2階には観光客向けのお土産屋、地下1階では観光客や地域住民も日常的に利用できるように生鮮を販売するフロアを設けた。安芸市の特産品であるナスやシラスを販売することで地域の活性化につながると考えた。

バス停の待合室にお遍路の文化や、矢流という地域の歴史の展示をする(図9)。歴史や文化に触れる機会を生み出し、継承されることを期待する。



図9. バス待合室

現状では、国道と同じレベルに平面駐車場が設置されており、収容台数は約50台である。収容台数を変えずに、駐車場としての機能を商業施設の地下に移動させるため、技研製作所のエコパークを採用した。入出庫は1台ずつしか行うことができないというデメリットがあるが、乗降所を設けることで来場者や退場者が集中した際に交通渋滞を引き起こさないような工夫をした(図10)。

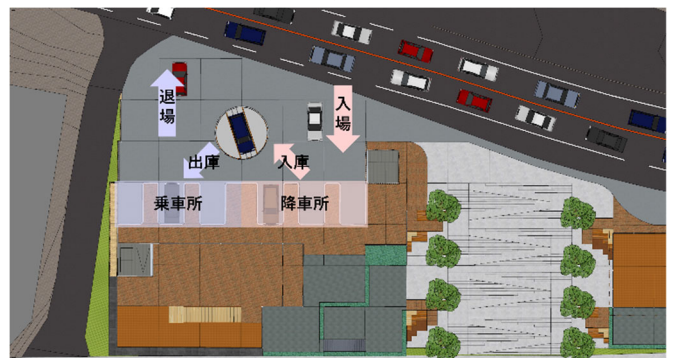


図10. 1階平面図

2) 共用広場

心地よく自転車道を利用できるように、広場を自転車道と同じレベルに設置し、海に向かって下がる緩やかな斜面にした。薄暗さや圧迫感が改善され、海を眺めながらサイクリングすることができる空間となった(図11)。



図 11. 自転車道から共用広場を眺める

緩やかな斜面を活用した共用広場では休憩やイベントを行うことができる。海への眺望を考慮し、柵を設けず植栽による自然な境界によって海に近づける工夫をした。広場のステージでイベントが行われる際には、バス待合室のテラスから眺めることができ、一体的な空間となる(図 5,12)。



図 12. テラスから共用広場を向く

3) グランピング施設

観光客の目的地ともなる施設を目指した。地元の食材を提供するだけでなく、釣りやカツオの薫焼き体験などのアクティビティを提供する。

観光客が事前予約をして使用することを想定しており、地域住民の誤侵入を防ぎ、プライバシーを保全するために、管理人が常駐する事務室を設けた(図 13)。



図 13. グランピング事務室

既製品のドームテントを含む個室を 10 部屋設置した。個室からの海への眺望を妨げることなくプライベートな空間への視線を遮るような植栽計画を行った(図 14)。



図 14. 個室から海への眺望

キャンプファイヤーを行う空間を、共用の階段を下った先に設けた。利用客のプライベートな空間であるドームに対して、観光客同士で交流できるパブリックな空間となる。日中に限らず夜も賑わう空間となる(図 15)。



図 15. キャンプファイヤーの様子

6. まとめ

本設計により、地域活性化の拠点として、自然資源や文化資源の魅力を発信することが可能になる。観光客だけでなく地域住民も集うことにより、地域が活性化すると考察した。

7. 参考文献

・とさこくの道路事業 | 高知東部自動車 - 四国地方整備局

(<https://www.skr.mlit.go.jp/tosakoku/industry/road/tobu/tobu.html>)

・機械式駐車場「エコパーク R」 - 技研製作所

(https://www.giken.com/ja/products/eco_park/)